

平成29年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議  
第1回 介護保険に関する会議 会議録

**1 開催日時**

平成29年6月20日（火）18：30～20：00

**2 開催場所**

北九州市役所 3階 大集会室

**3 出席者**

(1) 構成員

井上構成員、上村構成員、大下構成員、熊野構成員、下河邊構成員  
白木構成員、高嶋構成員、中野構成員、中村構成員、野村構成員  
橋元構成員、丸林構成員、渡邊構成員

(2) 事務局

地域福祉部長、介護保険課長、介護サービス担当課長、  
長寿社会対策課長、地域福祉推進課長、地域支援担当課長  
認知症支援・介護予防センター所長、地域医療課長、  
食育・栄養改善担当課長

**4 会議内容**

- 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議の運営について
- 次期高齢者支援計画について
- 第7期介護保険事業計画の策定に向けて
- 北九州市の介護保険の実施状況（資料添付のみ）

## 5 会議録（要約）

### （1）次期高齢者支援計画について・・・・・・・・・・資料2

事務局：（仮称）第五次北九州市高齢者支援計画の策定について、資料に沿って説明

#### 代表

現状と課題整理、本会議で何を議論していくかについての説明があった。

2025年には、団塊の世代が75歳以上になるが、北九州市の高齢化のピークは、2020年頃であり、それまでにある程度の見通しを立てないといけない。

資料によると高齢者の13.4%が認知症で、先日公表された日銀のレポートでは、アルコール依存症の可能性のある人の割合が、全国平均を大きく上回る11.9%となっている。

これらの医療費の問題は、雇用の問題にもつながっている。

#### 構成員

たくさん課題があるが、現場で痛感するのは、孤立化が進んでいるということ。ひとり世帯、夫婦のみ世帯も増え続けている。

孤立化により介護状態が悪化し、貧困にもつながる。そのようなことが地域で発生したときに、「どこで」「誰が」気付くかが課題である。虐待の問題への対応も必要。

#### 長寿社会対策課長

地域包括支援センターや区役所など、いかに関係機関へつなぐかは課題。

北九州市には、福祉協力員や民生委員等による「ふれあいネットワーク」がある。そういった既存の機能を強化し、「地域づくりの構築」という視点も計画に盛り込んでいきたい。

#### 代表

地域包括ケアシステムでは、各専門分野の持っているエビデンスと地域の気づきをミックスさせていくことが重要と考えている。

#### 構成員

校区によって地域性も異なる。

高齢者だけでなく、保育や障害も含め、各団体と連携を取っていくことが、北九州市らしい地域包括ケアにつながるのでは。

生活困窮者の問題についても、関係者での会議を開く際は、市が積極的に関わっていくべき。

#### 構成員

資料の「高齢者を支える介護サービスの充実」について、介護サービスの質と人材の確保は、切っても切れない関係である。在宅での生活を希望する高齢者の声に答えるには、

人材の問題がある。外国人労働者の介護人材に助成金を出している自治体もある。

専門職の潜在的人材の確保も重要と考えており、福祉人材バンクの目標値（紹介件数）については、なかなか達成できていないが、就業した後の定着率についても把握してほしい。

事業者からは、求人広告を出しても人が集まらないと聞いている。ボランティアだけでなく、シニアの人材の参画についても、計画の中で考えてほしい。抜本的に何か考えないと、事業所はかなり疲弊している状況だ。

#### **代表**

地域密着型サービスの利用者数は、平成 27 年と比較して、約 2 倍に増えている。

人材供給が追いついておらず、外国人労働者や有償ボランティアも「互助」という概念の中に、制度として含めていかないといけないのではないかという構成員の意見があった。

他にも色々な課題があると思うが、それぞれの意見を次期計画へどう反映させていくか、今後検討していかなければならない。

## (2) 第7期介護保険事業計画の策定に向けて・・・資料3

事務局：第7期介護保険事業計画の策定について、資料に沿って説明

### 代表

説明のあった資料について、計画の柱としては間違っていないし、いずれも重要課題であると思う。

### 構成員

柱はこれでいいとして、介護予防や地域づくりの問題も介護との関連性があるという認識に立っている。この会議の中での、それらの議論の方向性がある程度整理していないと、焦点が絞りにくい。

また、市民目線で質の高い介護が提供されるようになっているのかを、どこで私たちが知るのか。そこがはっきりしないと、どのような計画を立てるべきか見えてこない。

### 構成員

施設では、入所者もその家族も高齢化している。

介護だけでなく医療的な問題も大きくなっており、介護保険の枠組みの中だけでは、対応が難しい。そのあたりも考慮してほしい。

### 構成員

在宅での介護について、家族が頑張りすぎて仕事を辞めてしまうという問題がある。

施設に入所を希望しても、介護付きの有料老人ホーム等は月15万円くらい費用がかかり、払える方は少ない。こういった所を「公助」でどうにかならないかと思う。

また、施設での看取りについて、施設職員に対する講習会や、初めにご家族・ご本人と話して書類を作成するというのも大事かと思う。

### 代表

北九州市の特養は5,161床あり、待機者が2千数百人、老人保健施設が2,970床。

ここ7、8年で非常に増えており、計画の中で、施設の適正な数は慎重に推し量っていかなければならない課題だと理解している。

前回は議論したが、その点について市民への啓発をどう進めていくかということも、この部会の大きな仕事である。

### 構成員

今後、重症化予防・介護予防を重点的にやっていくには、多職種が勉強して、共通認識を持ち、要介護度が軽減されるよう努力していく必要がある。

利用者によってケアプランに大きな差があり、これを解消するためには、ケアプランの標準化を考えていかななければならない。

在宅で介護を受けている方でも、いざとなったら救急車を呼んでしまう。かかりつけ医とご家族との話し合いが十分にできていないのでは、と感じる。

#### **構成員**

介護関係の事業所では、人材が確保できないために、倒産したり、指定の更新の際に規模を縮小する所が増えている。

人材確保のためには、外国人労働者を入れざるを得ない。台湾や韓国など、海外でもそのような取組みが進んでいる。国際会議でも労働力不足は各国共通の課題である。

箱ものは結構できているが、これからは人材の確保が重要と思う。

#### **構成員**

介護する家族の負担が強くなってきており、不安を感じている。世帯の中に介護できる人が減って、支えられない世帯が増えている。

在宅で看取りをしたくても、24時間連絡でき、訪問してくれる医師がいないと最後は救急車を呼ぶことになる。

介護サービスを利用すれば家族の負担は軽減されるが、お金がなくて自分で介護する人が増えている。「介護しながら働ける職場」ということも考えつつ、そのような家族を支えられるようお願いしたい。

#### **構成員**

社会の構造として、格差がすごく広がっている。お金の格差は情報の格差につながる。

介護保険のサービスを受けられることを知るかどうかは、家族の負担の面からも大きな違いである。誰もがサービスを受けられるような仕組みを作ってほしい。

#### **構成員**

地域包括ケアシステムは「地域でできることは地域で」という理念だが、高齢化に伴い地域が崩壊してきている印象を受ける。自治会の役員のなり手も減っており、地域包括ケアシステムそのものが難しくなっている。

地域に何を求めているのか、自治会長などでも理解できている人は少ないと思う。そのあたりも啓発・勉強会などの機会が必要。

北九州市は、全国に先駆けて高齢化のピークが来るため、地域づくりが間に合わないのでは、という危機感がある

#### **構成員**

1次予防をしっかりやることが重要。特定健診の受診などを通して、自分の健康状態を把握し、早期発見、早期治療に努めていくべきである。

#### **代表**

ほかに意見等がなければ、これで閉会とする。